

# 読売歌壇

## 小池 光選

素麺をひと口すすりふと思ふ何してきたか九十五年 相模原市 染谷栄都子

【評】九十五歳といふ高齢が有無を言わせぬ力でせまる。素麺ひと口すすりふと思ふ。わたしは何をしてきたのか。この厳肅な問いに、正面から答えられる人はいない。

三叉路で鉦路ナンバーの車見る 今日日記に記すはそれのみ 佐世保市 近藤 福代

【評】作者は長崎県に住む方。北海道から帰るはる日本列島を南下してきた車を見た。それだけを日記に書く。めずらしく、なにか希望を与えられるような気がしたのである。

「おばあさん」と赤の他人のじいさんと呼ばれたくない耳塞ぎます 高槻市 佐々木文子

【評】これは確かに言われたくない。まことに失礼である。ではあるが、ではなんと呼びかければいいのか、なかなかムスカシイ。

あかとき夢に目覚めて屋根を打つ雨音を聴くしみじみと聴く 東久留米市 郷間 浩明

農婦にて七十四年生きし母一泊の旅すらせず近きたり 竹原市 岡元 稔元

これ以上産れぬ鉢巻髪に乗せ若き女性ら祭りへ急ぐ 八王子市 斎賀 勇

むすめからもらひし小遣ひつききみて買ひたる『あしたのショー』の全巻 仙台市 加藤 祐子

燗だつ気を鎮めんと庭に出て風のなかななる茗荷を摘めり 久喜市 深沢ふさ江

蟬の声こそしも聞けて嬉しいと病ひの友はしみりて云ふ 高石市 出水美智子

## 栗木 京子選

孫のあと続いて登る岩山に下りはすくむ足情けなし 姫路市 田東 明美

【評】孫とともに登山をするひととき。上りよりも下りのほうが苦勞する。孫は力強く声をかけてくれるのだから、足がすくんでしまふ。結句に率直な心情が表れている。

孫の絵がプリントされしTシャツを祖父母は着たり初めてペアで 別府市 脇 昭子

【評】Tシャツに絵を簡単にプリントできるようになった。孫が描いたのはどんな絵なのだろう。祖父母にプレゼントしたにちがいない。記念すべき「初めてペアで」である。

太陽の味するといふ pasta あり気になるほどに回復したり 広島市 倉橋 香織

【評】体調が良くなって食欲が出てきた。未知の味、しかも「太陽の味」に心をひかれる。上句の具体的に説得力を感じた。

濁流を逃れ岸辺に身を寄せる水鳥たちになお雨は降る 盛岡市 吉田 澄江

現代 ヒマラヤの鳥葬を為す村にても携帯電話在りて 所沢市 猿角 蔵人

園児ある家のフェンスに掲げらるる手描きのポスター 夏祭り告ぐ 前橋市 近藤 周雄

冷房効き冷水飲めるこの夏を永久と思ふ危ない地球 神栖市 山上ふみ子

蚊が飛べど今は叩かず姪と児がハワイに帰る機内にありて 鶴ヶ島市 由井 意男

一回で煮物の味がうまくいきもつ一品と量さずで たそがれの小田急線の柵沿いに白粉花が連なり 海老名市 玉川 伴雄

## 俵 万智選

トースター開けたときのよな熱気受け玄関ドアを一旦閉じる 大阪市 鷹取 真子

【評】猛暑を詠んだ歌が多く寄せられたが、比喩と美感が際立っていた一首。ドア一枚を隔てた外気に、思わずひるむ感じが伝わってくる。外出だが、むしろトースターの中に入るよな覚悟が必要だ。

凍らせたジュースを飲んでいるよなはじめが一番甘かった恋 富山県 松本 尚樹

【評】時間が経つにつれ、凍っていた水分が解けてくる。苦みや酸味が出るのではなく、ただ薄味になってゆく恋。比喩がぴったりだ。育ちゆく水の木立を眺めて待つ合わせする噴水広場 横濱市 山田 知明

雲一つない青空というものが決して良いとは思えない夏 八王子市 鈴鹿 直之

森の奥に魔女を訪ねてゆくように向かう漢方薬の薬局 平塚市 小林真希子

母の字に似せた誰かの字で届く送金をした時だけのお札状 入間市 砂 狐

ねぶた囃子きこゆるタバコの夏も帰省できぬとふ子に便り書く 青森市 安田 溪子

添削の削が多くて三分の一以下になる志望理由書 大津市 佐々木敦史

日常に毎日母が足りなくてゆくらりゆらん父娘の喜らし 日高市 金沢 潤子

## 黒瀬 珂瀾選

その一瞬雨んごとガラスが降ってきたよんき伯母の背に核の傷あり 神戸市 岸本 恵子

【評】長崎弁で原爆の被害を語った伯母。ガラスの突き刺さった傷痕が死ぬまで背中に残っていた。上句が実にリアルです。被害の記憶を語りつぐ大切さを感じます。

何気なく季節の検索掘り下げて詐欺の画面に辿り着きたる 丸亀市 服部 芳郎

【評】インターネットでは、好奇心からの検索が詐欺の餌へと繋がってゆく。年齢を問わず、リテラシーをしっかり学ばねばと、油断できない世の中を見つめているのでしょうか。もしも海に海をやめると言はれたらわれも同じと愚痴聞かつもり 佐野市 中野 忠

【評】温暖化やらゴミ投棄やら汚染水やら災難続きで、海も愚痴りたくなるか。人間も海も同じく苦しいね、というユニークな一首。

猛暑日に草取りせしの報告に「無理せず」あふれるグループライン 宇都宮市 佐藤 順子

「水分を摂ってクーラー惜しむな」と親のごと娘は電話掛ける 南丹市 中川 文和

七十年前の自分になれるかなジンド見つけて図書館に読む 高崎市 熊沢 峻

いいかげん家族になろうと覚悟してそのうち姿を見せぬ黒猫 東京都 榎本 ユミ

数々の友を送りて君だけは送って呉ると信じて居たに 香取市 嶋田 武夫

少国民のわれを打ちたる女教師の戦後の変節忘れずにある 下関市 森 利治

戦死公報掘りし母の乳のみし哀しき赤児名は征子なり 宇治市 長谷川昭子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はせみのぬけがら